

【新型コロナはまだ終わってない】「歌が大好きで歌のことしか考えないでやってきたけど」「まずは自分の命が大事かなと思いました」 新型コロナの5類移行から1年超・・・いままも後遺症に苦しむ演歌歌手に密着

2024.07.10 ABCニュース

倦怠感や全身の痛み、味覚障害など、人によって様々な症状が現れる新型コロナ後遺症。寝たきりの生活を余儀なくされている人もいます。

(相澤めぐみさん)

「生きることを最優先にしないと、もうちょっと大変なことになってしまうって」

相澤めぐみさんは新型コロナウイルスに感染するまで、東京を拠点に演歌歌手として活動していました。

演歌歌手としてステージに立っていた相澤さん

温泉施設などを中心にステージに立っていましたがコロナに感染し、さらにその後の後遺症でステージに立つどころか、ほぼ寝たきりの状態に。再びステージに立てる日はやってくるのか。いままもコロナ後遺症に苦しむ演歌歌手の女性取材しました。



新型コロナ後遺症でほぼ寝たきりの状態に

神戸市に住む相澤めぐみさんはおとし2月、東京で新型コロナに感染しました。その後、後遺症を患い、2年半近くほぼ寝たきりの生活が続いています。

(相澤さん)

「最初は軽症で、熱も微熱がちょっとあったくらいで。喉はすごく痛かったですが、あとは咳くらいで結構元気でした」

しかし、3週間たっても改善せず、買い出しなど、少し外出したぐらいいでも症状がどんどん悪くなっていったといいます。



<https://www.youtube.com/watch?v=GBE8n6bM0t0>

(相澤さん)

「もうベッドから動けないというか、座るのもしんどいみたいな感じになって。これはおかしいなと思ってコロナ後遺症を積極的に見ている病院に行ったら『典型的なコロナ後遺症ですよ』って」

コロナに感染し、実家の神戸に戻った相澤さん

相澤さんの後遺症の症状は全身の倦怠感や強い疲労感で、微熱や思考力の低下などが長期間続くと診断されました。

相澤さん)

「早い人は何カ月かで治るけど、長い人は2年以上かかると。それがいつまでなのかわかりませんみたいなことを言われて。目の前が真っ暗になりましたね。もう自分の人生終わったなっていうか」

「歌が大好きで歌のことしか考えないでやってきたけど、もうそれすらもできると到底思えない状況というか、まずは自分の命が大事かなと思いました」

療養するため東京を離れ、地元の神戸に戻ることを決意しました。

原因がはっきりしない後遺症



寝たきりなのでマッサージが欠かせない

実家に戻ってから2年以上が経ったいまも、ほぼ寝たきりの状態が続いています。体が硬くなってしまったため、毎日マッサージ機でほぐしています。

(記者)「毎日やられてるんですか？」

(相澤さんの母)「はい、毎日朝起きたときとか、1日4回ぐらいですね。前はずいぶん硬かったですね。前はもっとたくさん場所をしてたんです。腕とかもすごく硬かったです。いまは鍼の治療でほぐしていただいたりして、もうだいぶ減りました」

(記者)「相澤さんもこれをやってもらえると、体としては変わってきますか？」

(相澤さん)「ちょっとは楽になりますね」

体を起こして座るだけでも負担が大きいため、食事は横になった状態でとっています。後遺症の影響で腕に負担をかけられず、食器はすべて軽いものを使用しています。食後は、

8種類の薬やサプリの服用が欠かせません。

(相澤さん)

「薬がない病気なのでいろんな薬を飲まないといけないんですよね、それもちょっと辛い」

## 後遺症とワクチンの関係

コロナ後遺症になる患者には“ある傾向”が

コロナ後遺症についてWHO(=世界保健機関)は、倦怠感や集中力の低下などの症状が2カ月以上続き、ほかの病気による症状として説明がつかないものと定義しています。厚生労働省の最新の研究では後遺症患者のうち8.5%が、半年後も日常生活に深刻な影響がでているということです。

コロナ後遺症は明確な治療法が確立されていませんが、後遺症になる患者には“ある傾向”が見られることがわかってきています。

それは「女性」「基礎疾患のある人」「コロナの重症度が高かった人」です。また、ワクチンを摂取した人が後遺症になりにくいことも新たにわかりました。

後遺症「診療の手引き」編集委員代表・岡部信彦さん



厚生労働省が作成したコロナ後遺症の「診療の手引き」で編集委員の代表を務める岡部信彦さんは・・・

(後遺症「診療の手引き」編集委員代表・岡部信彦さん)

「コロナ後遺症は病気が重症の方が起きやすいですよ。長引く割合は高い。病気をできるだけ軽く済ませたり、重くなるのを防いだりできればかからないように工夫をした方がいいです。ワクチンを摂取することによって、かかる割合や重症化の程度を軽くさせるという意味での効果はあるだろうと思います」

また岡部さんは、後遺症になったとしても、1人で抱え込まずに、医療機関などに相談してほしいと話します。

(岡部信彦さん)

「いろんなレポートによって差はありますが、3分の2くらいの患者さんは治るんですよ。3分の1か4分の1くらいの患者さんは治療を継続しないといけないので、自分でどこにも行かないで家でふさぎ込んでしまうとかではなくて、医療機関に行かれた方がいい

いと思います」



2年半でようやく回復の兆しが  
外出ができるようになった相澤さん

2年半近く寝たきりの生活が続いていた歌手の相澤めぐみさんにいま、回復の兆しが見え始めています。

これまで、体力的に外出はできませんでしたが、最近は車で移動できるほどにまで体調が良くなってきていて、通院もできるようになりました。

(相澤さん)

「ちょっと前なんて通院なんて絶対無理だと思ってました。前は座ることも厳しかったので。何分かでも座れるようになったのは進歩ですね」

徐々に見え始めた回復の兆し。相澤さんはその先の未来に希望をもっています。

(相澤さん)

「元気になって、また歌うっていう欲は捨てないようにしています。もう一生できないんじゃないとかあんまり考えないようにして、よくなったらどういう形で歌えるかは分かりませんが歌おうっていう、やっぱり元気じゃないと歌えないし、そういう意味では前向きかもしれないですね」

(相澤さんの父親)

「やっぱり歌わせてあげたいですね。そこまでが最終に目標というか。本人もそれに向かって頑張っているのが一番ですね。」

いつかまたステージに立ち、歌を届けられる日まで。コロナ後遺症と向き合う日々は続きます。